



すわべ たかし
諏訪部孝敏 議員
(政経会)

防犯カメラ設置について

諏訪部 防犯カメラの設置は、東京都での取り組みを皮切りに、大阪府の箕面市など今後全国的に広がっていくものと推測される。まず最優先すべきは、通学路や公共施設への設置が必要と思うが、当市の考えを伺う。

市民部長 富士宮市は市域が広いことから、防犯カメラだけに頼るのではなく、青色回転灯装備車による防犯パトロールの実施や防犯灯のLED化を進めている。

市長 いろいろなお問題があるとしても、やはり安心安全なまちをつくっていく。そして、犯罪を抑止していくことは、経費が大分かかるが、設置していくということでは理解してほしい。

性的マイノリティーの理解と支援について

諏訪部 性的マイノリティー（性的少数者LGBT）の教育現場の対応について、小・中学校での児童生徒への配慮と相談体制はどのような考えか伺う。

教育長 学校・学級で、多様性を尊重する人権教育の一層の推進と相談体制の充実を図り、安心して学校生活が過ごせるような取り組みを進めていく。

富士宮市の障がいを持つ人の雇用状況及び自立できるための施策について

諏訪部 障がい者就労施設等からの物品等調達状況はどうか。

保健福祉部長 物品等を購入する際、積極的かつ優先的に障がい者就労施設等から物品等の調達に努めるよう26年度に定めた。これに沿って、市の各部署では、障がい者就労施設等から物品の調達に取り組んでいる。



▲市役所庁舎1階では授産製品を販売しています



いなば こうじ
稲葉晃司 議員
(蒼天)

富士宮市立病院の現状について
〜地域医療を守るために
2017〜

稲葉 平成30年度の富士宮市立病院の診療体制はいかがか。医療圏の市民に対し、前年度以上の医療を提供できる体制は保たれるのか。

病院長 30年度の整形外科の診療体制は、3人体制となる予定。小児科は4人体制となる予定。常勤医が不在の泌尿器科は、非常勤医での外来診療のみとなるが、29年度と変わりは無い。現在、水曜日に京都府立医科大学から非常勤医を派遣してもらえるように交渉している。それが実現すると、火曜日に入院検査・治療、水曜日に退院スケジュールも可能となり、より効率的な病院運営ができる可能性がある。他の診療科は、現状の医師数を確保できると思われるものの、正式に決まるのは12月以降になる。

稲葉 これまでに行ってきた市民への啓発と効果は、医療現場にあ

らわれているのか。

病院長 近年、診療所からの紹介患者数が増加していることから、かかりつけ医を持つことの必要性は市民の理解が得られていると思う。市民への啓発には大きな問題点を抱えていると考えられる。かかりつけ医で風邪ということでは詳しく診察されずに、市立病院の外に来院した時には重症肺炎になっていて、入院ということもある。かかりつけ医があれば大丈夫というわけでもない。市立病院への安易な受診を控えましょうということも、あまり強く言うべきではない。そこで判断する医師の能力の問題であると思う。



▲平成30年度の富士宮市立病院の診療体制は
いかがか